

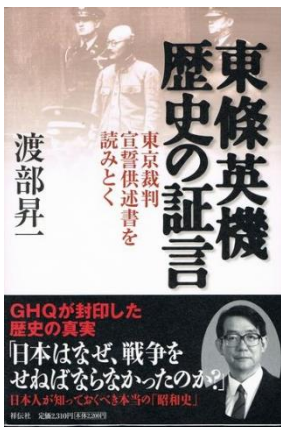
2023
秋号

千の声 VOICE NO.20

虚偽につき固められた「昭和史」に決別を

●「東條英機 歴史の証言」 ～東京裁判宣誓供述書を読みとく～

渡部昇一/祥伝社



マッカーサーは、朝鮮戦争を経験してみて、初めて大東亜戦争の意味に気づき、帰国後の1951年5月、上院軍事外交合同委員会において、次のように証言した。

<Their [The Japanese people's] purpose, therefore, in going to war was largely dictated by security> (彼らが戦争に突入した主たる動機は、自衛のためだった)

この証言は、東條首相が遺した供述書の論旨と全く同じものである。このことを、誰よりも日本人が知っていなければならない(渡部昇一)。昭和23年刊行後、GHQにより発禁処分とされた東京裁判における東條英機・宣誓供述書。GHQが封印した歴史の真実、そして日本人が知っておくべき本当の「昭和史」を紐解く。

はじめに—この第一級資料が、なぜうもれていたのか 3

第1章 昭和15年の日本と世界 25

わが経歴 27

第二次近衛内閣の成立とその当時に於ける内外の情勢 47

二大重要国策

第2章 三国同盟 109

三国同盟 110

北部仏印進駐 121

日華基本条約と日満華共同宣言 132

日ソ中立条約並に松岡外相の渡欧 141

第3章 日米交渉と南部仏印進駐 153

第二次近衛内閣に於ける日米交渉 154

対仏印泰施策要綱 171

独ソ開戦に伴う日本の態度決定 204

第4章 第三次近衛内閣と日米交渉決裂 219

第三次近衛内閣に於ける日米交渉

(其一、9月6日御前会議以前) 220

9月6日の御前会議 228

太平洋作戦準備 244

第三次近衛内閣に於ける日米交渉

(其二、9月6日の御前会議以降) 258

第三次近衛内閣の総辞職 262

第5章 東條内閣成立 283

東條内閣の組閣 284

11月5日の御前会議及其前後 298

陸海軍合同軍事参議官会議 314

11月5日の御前会議 321

東條内閣における日米交渉 333

第6章 開戦 361

重臣懇談会 362

12月1日の御前会議 378

12月1日の御前会議終了より開戦に至る迄の重要事項 391

真珠湾攻撃の実施 420

ルーズベルト大統領より天皇への親書 427

第7章 俘虜取扱いに関する問題について 429

内部統督の責 430

俘虜処罰法 441

空襲軍律 443

泰緬鉄道の建設 446

俘虜処理要領及俘虜収容所長に与えた訓示 450

俘虜関係の陳述の訂正 453

第8章 大東亜会議 455

日本の企画せる大東亜政策 殊に之を継承して

東條内閣に於いて其の実現を図りたる諸事項 456

陸軍と政治との関係 504

軍紀の確立に關し私の執った政策 516

ソ連並にコミンタールとの関係 518

第9章 敗戦の責任 525

摘要 526

おわりに—虚偽につき固められた「昭和史」に決別を 533

第1章 昭和15年の日本と世界 109

昭和15年当時のシナと世界の状況 72

東條さんが第二次近衛内閣の陸相として入閣した昭和15年(1940年)の時点で、支那事変は3年になります。第一次近衛内閣は、多田陸軍参謀次長の切なる願いにもかかわらず、支那事変を終結させるところか、「蔣政権を相手にせず」という声明を発表して交渉の扉を自ら閉じてしまいました。近衛首相にこれをさせたのも、コミンテルンの指令を受けて、日本の政権中枢にもぐりこんだブレーン・トラストの連中とされます。シナのほうでも、北京、南京、上海、武漢三鎮、広東など、主要都市が占領された状態で政権が機能を失っていましたので、早く日本と交渉できる政権が必要であると考えた人も出てきました。国民党副総裁の汪兆銘は愛国者で、政府がない国の悲惨さを知っていました。昭和15年(1940年)、南京に汪兆銘政権を樹立しました。汪兆銘は国民党において孫文のナンバー2で、蒋介石のライバルだった人ですが、問題は、彼が軍を掌握していなかったことでした。彼は、政治家として、シナの民族を無政府状態の中においておくわけにはいかないと、命がけで国民党政府のおかれていた重慶を脱出しました。彼は蒋介石の武威が及んでいない雲南や、その近在の地方に行って、自分の政権を打ち立て、日本と交渉するという形を考えたのです。ヨーロッパでは、第二次欧州大戦が世界大戦になるだろうという緊迫感が強まります。

フランス、オランダはすでにドイツに占領され、イギリスもダンケルクから追い払われました。そのイギリスに対して、アメリカはレンド・リースという、本当は中立国がしてはいけない軍事援助を通して、ほとんど無限の援助を始めました。日本はドイツと軍事同盟を結んでいますので、それがどう日本に影響を及ぼすかわからない。そして、アメリカ、イギリスが、日本に対して中立国の枠をはずしたような露骨な経済圧迫をかけてきます。昭和 14 年(1939 年)7 月、アメリカはすでに日米通商航海条約の破棄を通告していました。これは平沼内閣のときで、いよいよ貿易は難しくなってきたわけです。つづいて昭和 15 年(1940 年)7 月 26 日には、ルーズベルト大統領による対日石油・鉄屑輸出許可制発表がありますが、実質上これが日本には大打撃でした。日本は戦争に突入する可能性が大きくなっていました。第一次世界大戦でトータル・ウォー、「全体戦」という概念が出てきました。国のあらゆる資源、人的資源も物的資源も総動員して戦わなければだめだということです。官僚たちの中から新官僚といわれる一群が現れます。彼らはトータル・ウォーを考えて、国家社会主義的な生産態勢の構築を考えます。米英は自由主義だと言っていますが、みんな植民地を持って原材料を押さえている国ですから、自由経済体制でも、原材料に困ることはありません。日本やドイツは戦争するための武器その他を作る原材料がありません。限られた原材料で戦争しなければならないとなると、猛烈な統制を布かなければならなくなります。

第 2 章 三国同盟 109

昭和 15 年 9 月 19 日の御前会議 113

昭和 15 年(1940 年)7 月 22 日に第二次近衛内閣が成立し、二か月後の 9 月 17 日に三国同盟が締結されました。内閣成立から四日後の 26 日にルーズベルト大統領は鉄屑の輸出を許可制にしました。さらに五日後の 31 日に航空機用ガソリンを禁輸にしました。同時にアメリカは蒋介石に 2500 万ドル(約二か月後には一億ドルになる)の援助を決め、イギリスも約二か月半後に 1000 万ポンドの援助を決定しました。9 月 23 日には、日本軍が北部仏印に進駐しています。北部仏印(フランス領インドシナ。現在のベトナム、ラオス、カンボジア)進駐は、援蒋ルートを断つことが目的で、物資を手に入れることを目的とした南方問題とは違います。しかも仏印進駐はフランス政府(臨時政権ではありましたが)と交渉の上で進駐したわけです。「御前会議」という言葉ですが、御前会議というと、いかにも天皇が会議に出て発言するように思われますが、実態は連絡会議と同じです。天皇は事前に決められたやりとりを聞いているだけで、ご発言なさることはありません。御前会議で天皇がご発言なさったのは、終戦のときだけ、これは異例なことでした。昭和 15 年(1940 年)9 月 19 日の連絡会議で日独伊三国の関係強化を進めるにあたっての形式を共同声明にするか条約にするかという問題について、松岡外相は条約にすることをよしとしました。同盟が日米関係に及ぼす影響ですが、松岡が言うには、三国同盟は、決してアメリカと戦争するためのものではなく、逆にアメリカとの衝突を避けるための一つの模索だということでした。これは間違っていました。確かにヒトラーは、アメリカとの戦争には絶対反対でしたし、イギリスと戦争するのさえも嫌がっていました。対米戦を回避したいという目的において日本もドイツも同じだと言われれば、そうかと思える部分もあります。アメリカには独伊系国民の勢力も相当存在し、世論にある程度影響を与えることができるという松岡の判断ですが、これははっきりと誤りだったといえるでしょう。ソ連との同調については、ドイツもソ連とは仲良くしたがっている。日ソ間の協調についても、ドイツは援助を与えるだろうというのが松岡の説明でした。この九か月後にドイツがソ連に攻め込むとは思っていなかったのです。情勢は一步一步悪くなっていきました。しかし悪くなっているのは、アメリカの態度が硬直しているからで、アメリカは一步一步引いていないということも重要です。日本移民を排除する絶対的排日移民法(大正 13 年=1924 年)以来、アメリカは一步一步引いていません。

第 3 章 日米交渉と南部仏印進駐 153

南部仏印進駐の目的 184

南部仏印進駐の目的は、支那事変終結に向けて、英米蘭による援蒋ルートの切断です。他の第三国が重慶の蒋介石政権に対する援助をやめれば、すぐにでも事変は収束するのです。当時 ABCD 包囲陣というのがありました。A はアメリカ、B はブリテン(英国)、C はチャイナ(中国)、D はダッチ(オランダ)です。かつてはインドネシア全部がオランダ領でした。当時の蘭印(オランダ領東印度支那の略語)です。同様にアメリカといった場合はフィリピンが含まれます。イギリスといった場合は、インド、ビルマ、マレー半島、シンガポール、香港が含まれます。これらの地域からの援蒋物資を止めないと支那事変が終わらないということです。この包囲網は、日本にいろいろな意味の重圧をかけ、特に日本の生存に必要な物資が手に入らないようにしました。さらに重要なことは、放っておけばアメリカやイギリスが、当時の仏印(フランス領インドシナ=ベトナム、ラオス、カンボジア)やタイにおいて反日運動を煽動する恐れがありました。加えて、蘭印の外相が日本との通商会談を決裂させ、非常に非友好的な発言をしていました。さらに重要なことは、日本がサイゴンを押さえなければ、英米がサイゴンを押さえってしまう恐れがあったことです。昭和 16 年(1941 年)1 月末には、アメリカとイギリスの参謀本部がワシントンで共同作戦会議を開いています。英米がサイゴン、及び南部仏印に進駐すれば、北部仏印に進駐している日本軍は、北のシナと南の南部仏印の両方から挟み撃ちになってしまうわけです。石油がぴたっと来なくなってきました。日本の石油はアメリカとオランダからしか来ませんでした。アメリカが日本向けの輸出を禁止しましたので、残りはインドネシアしかありません。しかし、それも昭和 16 年(1941 年)になると止められてしまうのです。

第4章 第三次近衛内閣と日米交渉決裂 219

自分の主張は一步も譲らないアメリカの頑さ 225

日本はアメリカの要求に対して、きちんと返答しています。仏印進駐は支那事変の解決のためのもので、事変が終結すれば撤退する。フィリピンには手を出さない。南西太平洋の軍事的脅威などはなくする。その代わりイギリスもオランダも同じようにしてほしい。とにかく日本は物資がなければ生きていけないのだから協力してほしいと、そのことだけを要求しています。日本からアメリカに仕掛けたことは何もないということは、何度も主張しなければいけません。そもそも両国の関係をおかししたのは排日移民法をはじめとして、すべてはアメリカから出てきているのです。

石油全面禁輸が日本に与えた衝撃 230

石油が涸渇すれば戦争すらできなくなり、丸腰でアメリカと交渉しなければなりません。これでは足許をみられて交渉になりません。したがって、石油の残量を見ながら、交渉妥結の最終期限を区切る必要が生じます。石油がいつまで使えるかという、戦争を始めて少なくとも一年か七、八カ月はもってもらわないといけない。10月上旬ころまでに石油輸入の目途が立たないと困るということです。10月下旬を目途に、自存自衛をまっとうするためには戦争準備を完成するという方針が決められました。あくまでも外交交渉による解決を目指すのですが、どうしてもできない場合は開戦の決意もしなければならぬ。昭和16年(1941年)6月17日、蘭印(つまりオランダ)との交渉が決裂しました。8月1日、アメリカによる石油の全面禁輸です。

第5章 東條内閣成立 283

三つの選択肢 300

要領案には三案あり、第一案は、対米交渉貫徹。たとえ対米交渉がうまくいかなかったとしても、戦争に訴えずに我慢することです。これは結局戦わずしてアメリカに降伏し、日露戦争以来、日本が合法的に得ていた大陸の権利をすべて捨てることを意味します。第二案は、即刻交渉は打ち切って戦争しようというものです。第三案は、交渉は続行するけれども、不成立の場合は戦争をするというものです。戦争をするとなれば、12月初めしかありません。そこまでは外交努力を継続し、交渉成立を見たときは、ただちに作戦行動を途中で中止することによって話し合いがつかしました。すべては支那事変に始まったことでした。これを早く収束させたいということで、その時々々の政府のとってきた施策の結果として、この日の事態があるわけです。その最終決断を支那事変の開始に全く関係なかった東條さんがやろうとしているわけです。(第三案採択)

ハル・ノートがつきつけた四項目の要求 348

11月26日にハル・ノートが来ます。この覚書は米国の主張を固持するばかりでなく、それまでの話し合いで進めた点も全部白紙化したようなもので、日本にとって受け入れることのできないものでした。要点は四つで、一つは日本の陸海軍および警察隊も含めて、満州を含むシナ全域とインドシナからも無条件に撤兵せよというものです。第二に、満州国は否認すること。そのころでは、満州国を承認している国がヨーロッパも含めて数十カ国になっているのに、それを否認しろということです。そうすると、日本が立てた皇帝はどうなるのかということ聞いても、一切答えないのです。では満州はシナに編入されるのか、あるいは満州族が滅亡してもいいのか、などということも考慮に入れていない(戦後、満州族は事実、滅亡させられたと同様になりました)。第三に、南京国民政府を否認しろということです。南京政府は日本軍に依じて汪兆銘が命がけで重慶を脱出して樹立した政権であり、その動機も日本にへつらうというものではなく、日本占領下でもシナ人民を代表する政府が必要であるとの愛国心によるものであったことは明らかです。これを否認しろということです。最後の要求が三国同盟の死文化ですが、これは実際、死文化しているので、日本にとっては問題になりませんでした。

第6章 開戦 361

開戦の決定と長期化への懸念 382

12月1日の御前会議には、連絡会議の出席者のほか、政府からも全閣僚が出席しました。まず東條首相から、対米交渉がついに決裂し、この上は既定の方針に沿って、開戦を決定する旨、議題が掲げられました。東條さんは「戦争はなるべく早期に解決したい」旨を述べ、そして開戦に至るまでにアメリカが日本の要求を容れ、石油を売ってくれるなどということがあつたら、いつでも作戦行動を中止すると答えています。長期戦の場合、自分は内務大臣として人心安定、秩序維持に努め、外国からのスパイの活動やサボタージュを抑えることについては自信があるということで、これは確かにほぼ守られました。この御前会議の決定が、そのまま閣議決定となり、ここに正式に開戦が決まりました。

宣戦通告の遅延問題 399

12月8日の対米通告は、外務省の責任において行われました。米国への宣戦通告は、攻撃の開始以前にこれをなすこととし、このことはかねて天皇陛下より、東條首相および統帥部の参謀総長、軍令部総長にもしばしば御指示があつたところで、連絡会議の出席者は全員このことを了承していました。そしていつ通知を手渡すかは作戦上機微に関するものゆえ、統帥部と外務省との間で調整すべきことと、決められていたのです。真珠湾攻撃については極秘であり、閣僚でも陸海軍大臣以外は全然これを知りません。真珠湾の攻撃時間を外務大臣や企画院総裁が知っていたということもありません。日本政府においては、攻撃前に通知を渡すことは、統一した意見でしたし、攻撃後も

それは野村大使によって、外相の指示どおり正しく渡されたものと確信しておりました。後にそうではなかったことを知り、日本政府としては極めて遺憾であったと東條さんは述べています。結果として真珠湾攻撃は、卑怯な日本の不意打ちということになり、アメリカはそれを徹底的に利用したわけです。

第8章 大東亜会議 455

日本が「東亜の解放」を求めた理由 458

第一次世界大戦後の不況時代、列強は保護貿易にはしり、ブロック経済を進めました。こうした状況下において、日本と近隣地域相互の経済的提携の必要から、大東亜政策が唱えられるに至ったのです。そもそもアメリカが昭和5年(1930年)に、ホーリイ・スムート法を制定(下院への上提はその前年)して国内産業の囲い込みを始めました。昭和7年には、オタワ会議でイギリスが追随しました。アウタルキー(自国で出る原料・資源で経済的なことが完結できる政府)の能力がなければ国が生き延びられなくなります。それに加えて、アジアにコミンテルンの共産党の手が伸びてきます。それに煽られて、シナ大陸に排日政策が生まれます。日本としては、皇室廃絶を唱え、大陸にもめごとを起こそうと画策するコミンテルンと、世界列強のブロック経済によって、国の自存自衛が危機に直面します。日本もアウタルキーが必要になります。そこで出てきたのが「東亜の安定」で、日本に必要な物資の供給をこの地域から受けようというものです。軍事的な征服に依るものでなく、自由な貿易に依ろうというものでしたから、大東亜の建設と言っても、戦争をするための準備とは、関係ないわけです。そのとき支那事変が起こされたわけです。日本は約1年くらいで主要都市をほとんど占拠しましたので、汪兆銘政権を立てて撤兵を図りますが、アメリカ、イギリスは徹底的に蒋介石の重慶政権に援助を続けます。そのため、いつまでたっても事変が終結しません。そして日本には石油もゴムも売らない、国内の対日資産は凍結という政策をとります。日本は、蒋介石に対する英米の援助ルートを断ち切るために北部仏印に進駐します。さらに英米が南部仏印を占領する恐れがあるということで、そちらにも進駐します。決して勝手に進駐したわけではなく、当時のフランス政府と条約を結び、平和的に駐兵しているのです。いわゆる ABCD 包囲網の圧迫は強まるばかりで、そんな中、日本としては自存自衛のための方策をさぐらないわけにはいきませんでした。とにかく、インドネシア人が日本に石油を売りたいのではなく、オランダが占領しているから売れないのです。マレー人が日本にゴムを売りたいのではなく、イギリスが占領しているから売れないわけです。タイも米を日本に売りたいのではなく、イギリスの勢力下にあつて思うように売りたいわけにはいかないのです。ですから「東亜の解放」ということが、日本の自存自衛のためにその目的となってきたわけです。

大東亜会議の参席者たち 464

「東亜の解放」とは、独立を強く願っているアジアの植民地、あるいは半植民地にある各民族を、日本が助けようというものです。昭和18年(1943年)11月5日、6日に東京で大東亜会議が開かれました。これは極めて重要な会議でしたが戦後は一切教えられていない会議です。そこには非常に重要な人々が集まってきます。タイのワンワイタヤコーン殿下、満州国の張景恵首相、南京政府の汪兆銘行政院長、フィリピンのラウレル大統領、ビルマのバー・モー首相、それからチャンドラ・ボースが自由インド仮政府という肩書で出席しています。インドネシアからは、民族指導者として名をはせていたスカルノ(独立後は初代大統領)とハッタが来日します。

外相・重光葵の功績 469

大東亜会議宣言は非常に重要です。これは当時の外相であった重光葵のアイデアでした。単に日本が自存自衛のために戦ったのだと言っても、単なるエゴイズムとしか受け取られません。しかし、大東亜会議によって日本が実際に示したことは、実に立派なことです。たとえばビルマに独立を与え、フィリピンにも独立を与え、インドにも与える約束をして、インドの解放のための軍をインパールまで進出させました。さらにはインドネシアにも独立の約束を与えるわけです。大東亜会議宣言の思想は実に高邁で、シナに対しても本当に素晴らしい約束を与えているのです。アジア最初の独立国同士の会議を開いたわけです。満州国の首相も、南京政府の汪兆銘も、みな来たわけです。

大東亜共栄圏建設の理念と、日本の行ない 476

大東亜の建設とは、第一に独立した各国が共同してアジアの安定を確保することであり、自己の繁栄のために他国民を犠牲にするような旧秩序とは根本的に違うのです。第二は、相互の自主独立を重んじ、お互いを独立させるということです。また相互の伝統、文化を尊重する。そして互惠関係にするのです。大東亜の諸民族は白人の搾取の対象となったわけですが、それをなくする。つまり人種差別(第一次世界大戦後のパリ講和会議で新しく国際連盟をつくるための委員会において、日本が「人種的差別撤廃提案」をするが、アメリカのウィルソン大統領により否決された)をなくするということです。これが大東亜共栄圏という意味なのです。

ビルマ、フィリピンに独立を与えた日本 496

日本はビルマには、昭和18年(1943年)8月1日、独立を与えました。そして民族的に深い関係のあるマレー地方の一部を、ビルマに編入することにしました。行政府長官バー・モー氏は次のように言っています。「わずか1600万のビルマ人が独力で国家として生まれ出ずるために闘争したときは常に失敗に終わりました」「何代にもわたってわれわれの愛国者は民衆を率い打倒英国に邁進したのでありますが、われわれが東亜の一部に過ぎないこと、1600万の人間がなし得ないことも10億のアジア人が団結するならば容易に成就し得ること、これらの基礎的事実を認識するに至らなかったために我々の敵に対するあらゆる反抗は仮借することなく蹂躪されたのであります。同じ昭和18年

10月14日、フィリピンは独立しました。日本はラウエル大統領の希望に応じてフィリピンは日本の戦争には参加しないこと、軍隊は常設しないことに同意しました。このことから、日本はフィリピンに対しても領土的野心は何も持っていなかったことは明らかです。

英国に奪われた旧タイ領土を占領して返還 498

タイとの交渉はすべて平和裡に行われていて和平的軍事的相互援助を約して日泰同盟条約も結ばれています。マレーにおけるイギリス占領地域の中から元来はタイの領土であったベルリス、ケダー、ケランタン、トレンガンの四州、及びジャンの二州のケントン、モンパンを、日本はタイ国領土に編入することを約束しました。さらに、チャンドラ・ボースの自由印度政府をも支援し、当時日本が占領していた地域の中で唯一のインド領だった、アンダマン、ニコバル諸島を自由印度政府の統治下におく用意があると声明しました。これらの島々は日本が昭和18年にこれから独立しようとするインドに与えたわけです。これは大東亜政策の趣旨に基づいたものです。

第9章 敗戦の責任 525

戦争の責任と、敗戦の責任は別 530

事実を徹底的に知っている一人である東條さんが、日本にとっては非常な惨害を受ける結果となったような戦争を、なぜ起こさなければいけなかったか。結論から言えば、それは連合国側の挑発に原因し、わが国に関する限りにおいては、自衛戦として回避することができないものであったとしています。満州事変および支那事変、太平洋戦争の各場面を通して不断の侵略計画、共同謀議があったなどという主張は、まさに荒唐無稽であり、日本の基本的かつ普通の行政組織において、政府や軍部において多数の官僚あるいは少数の者が長期にわたり、多くの内閣に通じて一定不変の目的を有する共同謀議などというものが成立することは、理性のある者にはとうてい考えられないことだと述べています。追訴では、日本政府の共同謀議は昭和3年から始まったことになっていますが、その当時は政友会の田中儀一内閣でした。しかし、すぐその後に反対政党である浜口雄幸の民政党政権ができるわけで、その後も、まったく一貫性がなく、共同謀議などできるわけがありません。大東亜政策は、東アジアの資源の豊富なる地帯より白人を駆逐する計画であることを証明したものです。マッカーサーがアメリカに帰ってから、公式の場でこれと同じことを言うわけです。日本は近代国家として成立するために天然資源を何も持っていなかった。あるのは蚕くらいで、絹産業しかできない。しかし近代産業に必要なすべての物資は東南アジアにありました。アメリカはそれを日本に売らないようにした。したがって日本がこの前の戦争に突入したのは主として自存自衛のためであったとマッカーサーが後に証言しているわけです。この戦争の責任は、敗戦の責任と明確に区別しなければいけません。第一は外国との問題、法律の問題です。東條さんは最後の最後まで、この戦争は自衛戦であり、現在承認せられている国際法には違反せぬ戦争であったと主張しています。ただし第二の問題として敗戦の責任については、当時の総理大臣だった自分の責任であり、この意味における責任は、これを受諾するのみならず、真心より進んでこれを負うことを希望すると述べています。

おわりに一虚偽につき固められた「昭和史」に決別を

A級戦犯はすでに存在しない 537

中国政府がしきりに「A級戦犯が祀られているから靖国神社参拝はけしからん」と言っています。それに対して朝日新聞や加藤紘一氏のような議員、さらには中国で儲けている財界人などが尻馬に乗った発言をしています。朝日新聞の理論としては、「サンフランシスコ講和条約の第11条には、東京裁判を受諾するという条項があるではないか」というわけです。サンフランシスコ条約の第11条には、確かに日本政府は東京裁判のジャッジメンツ（諸判決）を受諾し、それをキャリー・アウト（実行）することを規定しています。判決を受けた人はA級戦犯のほかにもたくさんおりますが、そもそも講和条約というのは、その時点で、すべての捕虜を釈放するものです。講和条約を結ぶまでは戦闘状態にあるわけですから、その期間に死刑になったりしているのは、本当は俘虜虐待なのです。サンフランシスコ講和条約の同じ11条の後半には、日本政府から申請があって、講和条約に関係した国が了解すれば、戦犯でも減刑することができると規定されたのです。日本政府には当時4000万人と言われる戦犯釈放を求める署名が国内から集まってきていました。日本政府はそれを受けて各国と交渉し、了解をとったうえで全員を釈放しました。ただA級戦犯でも、死刑を執行されたり審理中に死亡した9人だけは生き返らせることができなかっただけの話です。

◎あわせて読みたい本◎

●『戦争犯罪国はアメリカだった! 英国人ジャーナリストが明かす東京裁判の虚妄』

ヘンリー・S・ストークス/ハート出版

「A級戦犯」を、不当な裁判にかけ、絞首刑で殺した。これはリンチであり捕虜殺害という戦時国際法違反である。処刑それ自体が戦争犯罪だった。

●『読む年表 日本の歴史 増補新版』 渡部昇一/ワック

年代順に選択、その歴史的本質的意味を、分かり易く解き明かしました。

ふんだんな挿絵や図版を使い、一見開きを基本にコンパクトに解説している。



『世界のともだち オランダ』 33

“サシャの笑顔はチューリップ”

文・写真・浅田政志/偕成社



浅田政志

サシャの
笑顔は
チューリップ

サシャは9才の女の子。自然豊かな、とても美しい街、ザイストに住んでいます。3人兄弟のいちばん下のサシャは、家族みんなからとてもかわいがられ、チューリップのようにまっすぐに育っています。お父さんとお母さんは16才の時に知り合いました。はじめはよい友だちで、つきあうまでに12年かかりました。ふたりとも、人の健康にかかわる仕事をしていて、むかしは同じ病院で働いていたそうです。活発でやさしいサシャは、犬と猫が大好き。何でも一生懸命に取り組みます。サシャの夢はホッケー（フィールドホッケー）で有名な選手になることです。サシャの家は、いまから90年前に建てられたとは思えないほどきれいな。緑にかこまれています。子どもたちは、ひとりひとり、とても広い部屋を持っています。部屋のかべには、家族みんなが描いた絵や写真がたくさんかざられています。部屋のあかりに明るい蛍光灯はありません。夜は落ちついた色の電球のあかりをつけ、ろうそくをともして過ごします。お母さんのやさしい声とキスで、サシャの1日は始まります。学校までは、毎日母さんと一緒に。自転車で5分くらい、学校が大好きなサシャはとても嬉しそう。授業は朝8時半にはじまります。サシャがとくいなのは、絵を描くこと。それに運動神経もばつぐんです。担任の先生はふたり。教室には信号のようなものがあり、赤いランプの時は『質問してはだめ、とにかく静かにする』、黄色は『できるかぎり静かにして、どうしてもものときは質問していいよ』、青色は『おしゃべりしてOK』のサインです。男の子たちはとにかく元気いっぱい。赤のランプがついているときもついさわいでしまい、先生に注意されていました。放課後は、ホッケーとリコーダー、そしてテニスをなっています。ならいごとがない日もお友達と遊ぶ約束がたくさんあり、放課後も大忙し。宿題をするのは、1週間に45分ほど。台所のテーブルでします。オランダの毎日のごはんは、朝と昼はパンやチーズをさっと食べてすませますが、夜ごはんは、だいたい夕方6時ころから、家族そろって食べます。スープにメイン料理、最後には必ずデザートがでます。ろうそくの明かりをかこみ、わいわい話しながらゆっくり食べます。みんなが食べ終わるまで、次の料理は食べない決まりです。サシャのお母さんはお料理上手なので外食はほとんどしません。お皿洗いはお父さんの仕事です。日本がゴールデンウィークを迎える頃、オランダでは「チューリップ休暇」とよばれる春のお休みがあります。4月27日は、国王の日。オランダ王の誕生日を祝う最大の行事です。服はもちろん、花や自転車、食べ物もオレンジ1色にそまります。国王が国民に愛されていることが、しみじみとつたわってくる1日です。みんなにかわいがられ、笑顔でのびのびと暮らす世界のお友達の日常が描かれています。(要約：K.M.)

『世界のともだち エジプト』 34

“アフマド 毎日がもりだくさん!”

写真・文 常見藤代/偕成社



常見藤代

アフマド
毎日が
もりだくさん!

首都カイロから北へ80キロ、緑豊かな農村地帯にあるガンズール村に、11才のアフマドはくらしています。アフマドは4人家族。お父さんは会計士で、いつも冗談を言って周囲を笑わせるのが大好き。お母さんは気さくで料理上手。アフマドはとても心のやさしい男の子です。道で野良猫を見ると、かわいそうに思って泣いてしまいます。お母さんは毎日家事で大変だからと、金曜日には簡単な料理もします。アフマドが通う小学校はとなり村にあり、スクールバスで通います。学校は、幼稚園から中学までの一貫教育。各学年は基本的に1クラスだけで、みんなとても仲よしです。木曜日にイスラム教の礼拝の時間があります。幼稚園では男子と女子が席をならべて座りますが、小学校からは席が左右に分かれます。イスラム教では、男女の接触を制限したほうがよいと考えられているからです。10才からは、女子だけ家庭科の授業があり、男子はそのあいだ図書室で読書をします。中学生になると、女子はスカーフをかぶります。学校が終わったら家でお昼ごはんを食べ、午後はダルスという塾へ行きます。ダルスの先生は学校の先生で、一緒に勉強するのも学校のクラスメートです。場所はおもに先生の自宅。アフマドの家で授業をすることもあります。ふだんダルスや習いごとで忙しいアフマドも、金曜日はお休みです。たっぷり朝寝坊したあと、お父さんと近くのモスクに出かけ、お昼の礼拝をします。イスラム教徒にとって、いちばん大切なのが金曜日のお昼の礼拝です。夜はきまって、お父さんの友人たちが集う「クラブ」へ行きます。クラブはエジプト人の社交場。イスラム教では男女の生活の場が分けられていることが多く、町の喫茶店に女性が入るのはよくないこととされていますが、クラブなら女性も子どもも入れます。学校もお父さんの仕事も午後の2時に終わり、そのあとは家で家族そろってお昼ごはん。エジプトでは、1日の中心の食事は昼食です。夕ご飯は、寝る前に簡単にとります。イスラム教徒は豚肉を食べてはいけないうきまりがありますが、とり肉や牛肉、ヒツジの肉、魚はよく食べます。外食もたまにしますが、アフマドは「お母さんが作る料理がいちばんおいしいよ」といいます。イスラム教徒の義務に、年に1度の断食があります。イスラム暦第9月の「ラマダン」の1か月間は、日の出から日没まで飲食ができません。日中食べられないのは大変ですが、「ラマダンは楽しいことがいっぱいだから大好き」だそうです。断食明けはいつもより豪華な食事がならび、親せきどうし家をたずね合うこともしばしば。両親はふだんから「家族や親せきのつながりを大事にするんだよ」といいます。人とのつながりを大切にしているエジプトで、楽しくくらすお友達の日常を、ぜひのぞいてみてください。(要約：K.M.)

□昭和 20 年(1945 年)8 月“敗戦”“引揚”～満州—新京—シベリア—京都—東京～

以下は石川塾長の父石川三五郎氏が満州に滞在していた時の隣人と十年余りの時を経て再会するエピソードが綴られた週刊読売(昭和三十(1955)年八月二十一日発行)特集「たずね人十年」より抜粋したものである。

東京都北品川の布施秀夫氏。親しかった友を十年の余も探し求めていた石川三五郎氏は同じ都内(中央区日本橋)に住んでいたのである。話は十年前にさかのぼる。当時二人が住んでいた満州の三江省楊原県涼台村には日本人が三十名しかいなかった。布施氏は、東本願寺派の開教員として開拓団の教養面の指導に当たり、石川氏は鉄道警護隊の分署長として駐在していた。村の知識階級として二人はよく夜を徹して語り合ったりした。やがて昭和二十年。急な坂道をかけ下りるような日本の敗勢、七月、布施氏は関東軍最後のあがきである在満邦人いっせい召集の波にさらわれ、初年兵として部隊におしこまれてしまった。敗戦の報の伝わった八月半ば、石川三五郎さんは出張中の華北から急いでハルビンまで引き揚げた。布施氏の家族、妻奈実子さん、母志津子さん、生まれたばかりの長女紀実子ちゃんの三人は、開拓団の人たちとともに最後の引揚列車にやっと間に合って新京まで引き揚げた。一方、石川氏の家族、妻知年さん、生まれたばかりの剛ちゃん(塾長)は、出張中の夫君の身を案じて綏化にとどまっていた。憲兵や巡查、特務機関員などの追及は一般邦人にくらべて特に激しかった。ハルビンまで単身北上した三五郎氏は、綏化まで家族に会うためには行かねばならなかった。満服を着て満語を話す三五郎氏ではあっても、目つき、顔つきで、日本人とわかってしまう。汽車が綏化に近づいたころ、列車中の満人たちが騒ぎはじめた。連結機のところ、難を避けた石川氏は、運を天にまかせて徐行中の列車から飛降りた。彼はやっと家族にめぐり会えた。奇しき縁の糸は、この両家を再び新京の邦人収容所の中で結びつけた。そこで石川家の人たちが聞いた布施秀夫氏の話は、応召後、進入したソ軍と戦端を開いた部隊の中にいるということしかわからなかった。不安と絶望の中にいる布施家の家族の人たちを絶えず元気づけ、励まし続けたのは石川さんをはじめ家族の人たちであった。一方布施秀夫氏はそのころ、東満国境牡丹江付近の横道河子でソ連空軍の猛攻撃を受けていた。相次ぐ機銃掃射。兵も、一般人も、満人、日本人も区別はなかった。それから収容されてシベリアへ。チタ付近の鉄道建設隊に送られての強制労働であった。苦行の生活は栄養失調のため案外、早く終わり、昭和二十二年の夏には舞鶴へ病人として帰ってきた。京都の東本願寺へ着くまで、家族は全滅したと思い込んでいた。それが郷里新潟に一足先に帰っていると知った時のよろこび。身体がよくなってから布施氏は東京に出てきて、不良少年を教化する仕事に従事するようになった。いつか石川氏にめぐり合って、当時の思い出も語り合い、新京での石川さん一家の親切にも報いたいと念じながら……。それが今日の再会になったのである。●TSUYOSHI(石川塾長)さんからの VOICE■

□講演「インドの独立を助けた日本の軍隊」① ～スバス・チャンドラ・ボース～

君たちがこれから世界の人たちと出会い友達を作って行く時に日本の事を相手に伝える事も必要になると思うので、お話します。例えばインドの若者と話をするとき「インドの若者に日本なんてたいしたことはない、インドの方が優秀でインドの国の方が素晴らしいと言われたとき、君たちはどうするかな」「そんなことはない」とケンカ腰で反論するのかな?」「それとも黙って相手の言う通りと思うのか?」「私だったら、こんな風にインド人に聞き返すよ」「あなたの国の英雄は誰ですかと聞きます」すると多分「初代のインド首相のネルさん」か「無抵抗で断食のガンジーさん」「インド独立軍のチャンドラ・ボースさん」の名前が出てくると思います。「何故ですかと聞きます」インド人の若者はインドを独立させた英雄だと答えると思います■「インドはイギリス東インド会社によって1640年にマドラスにセント・ジョーンズ要塞を建設されてから植民地政策が始まった。」「インドがイギリスから独立したのは1947年です。約307年間イギリスに支配されていました。」「インドは300年間、何度も独立しようと戦ったのですが出来なかったのです。」「何故1947年に独立できたのですか?」「ネルさん・ガンジーさん・ボースさんはどうして独立することが出来たのですか?」「1942年2月15日にイギリスの支配下のシンガポールが陥落しました。日本軍が攻め落としました。(日本とイギリスは戦争をしていました。)」日本は自分たちだけでイギリス軍と戦うのは大変なので、イギリス軍の中にいたインド兵に寝返り工作を試みました。」「イギリスは日本と戦うときイギリス軍だけでなくインドの人も兵隊にして日本と戦いました」「インドの人は日本と戦う理由は無いのですが、植民地にされてイギリスの言う事を聞かなければならなかったから」(ラース・ビハリー・ボースとチャンドラ・ボースは別人です)「インド国民軍はもともとイギリス軍の将兵として戦っていた人たち」「インド独立連盟は投獄されてもイギリスに反抗してきた人たち」初めはラース・ビハリー・ボースと言う人がインド独立連盟の代表だが指導力が弱くインド独立連盟とインド国民軍は対立してしまった。当時、インドで国民から絶大な尊敬と信頼を集めていたのは、「ガンジー」、「ネル」、「スバス・チャンドラ・ボース」の三人だった。チャンドラ・ボースはドイツに亡命して、遠く離れた欧州から反イギリス活動、インド独立運動を行っていた。ドイツ駐在武官の山本敏大佐がチャンドラ・ボースと面会して、その人格と独立への熱意、そしてカリスマ性を日本政府に報告した。また、チャンドラ・ボース自身も日本行きを切望した。日本政府はドイツ政府と直接交渉して、了解をえて、チャンドラ・ボースを日本へ移送することが決まった。移送方法は、日本とドイツの潜水艦によるリレー方式。陸路と空路より危険が少ないという判断。喜望峰周りとなるため時間を要した。(つづく)

●石川塾で講演(2023 年 8 月 19 日)RIICHIRO さんからの VOICE■(編集後記を御覧下さい)

<<千の声 VOICE>>

□韓国と台湾の日本に対する学生・マスコミの違い ～学生サミットを開催して～

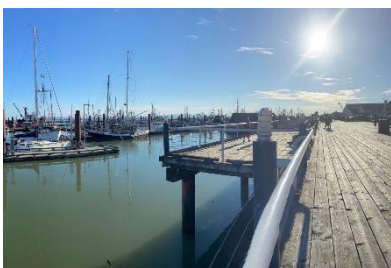
もう 20 年以上も前になる 2001 年と 2003 年において、韓国と台湾の日本に対する印象が国によって大きく異なる貴重な経験をしました ■私は大学生時代に「第 2 回学生サミット」という名前のイベントに主催スタッフの 1 人として参加しました。ちなみに第 1 回は、先輩方が沖縄で、当時の G7 沖縄サミットと合わせるようにして、同日期间中に沖縄で全国の学生が集まり「学生からも議論や交流を通して、社会に対して学生ながらの視点で提言を行う」というイベントを行っています。第 2 回では歴史上今までにないほどに交流が盛んになっていた韓国と台湾で、若者学生から日韓の新しい関係性を構築したいという気持ちをもったイベントをソウルで開催することとなりました。参加数が 1,000 名を超え、学生が主催するものでは、当時歴史上最大規模の日韓交流イベントとなりました。韓国では日本のポップミュージックの韓国歌手によるカバー曲がブームになっていたり、パラパラダンスやコスプレが大変人気がありました。また日韓共同主催のワールドカップ開催も直前に控えていました ■無事にイベントも終了すると、主催スタッフに対してメディアからの取材がありました。日本や韓国のテレビ局をはじめとし、雑誌、ラジオなどにそれぞれ主催スタッフそれぞれが分散して取材を受けました。私は韓国の地元テレビ局の取材を受けることになりました ■「日韓関係の過去の出来事は出来事で理解する一方、若い私たちは、新しい未来に向けて今まで以上に良い関係を築きあげていきたい」というイベント主催の理念」を伝えました。しかし、取材側から質問される言葉は、「日本は過去の出来事を忘れてよいのか。反省しないのか」の繰り返しが続き、とにかく「深いお詫びの言葉」を発しないと取材が前へ進まない状態でした ■韓国の若い方は、日本との交流や関係について、とてもポジティブである一方で、韓国メディアは、実際取材を受けてみて、非常にネガティブな見方をしてくるという実感をした経験でした ■日韓交流イベント開催から 2 年後、後輩が台湾で同じく日台交流イベントを台北で行うこととなりました。私は既に社会人になっていたため主催者側ではなく一般参加者として、また日台歴史討論会に参加しました。討論会場に入り、日本側と台湾側とで向かい合うように座り、討論会が始まろうとした時、台湾側から討論会を始めるにあたって、先に一言言わせてほしいとのことでした。その瞬間、一昨年の韓国取材時の思い出が頭によぎりました。自然と下を向きながら何を言われるのか待っていました。そしたら思いもかけない言葉が耳にはいってきました。「まずこの歴史討論会を始めるにあたって、一言日本の皆さんへ申し上げたいと思います。今ある台湾、ここにある台北の街、上下水道などのあらゆる今ある姿は、かつての日本の統治のおかげです。まずはそのお礼をさせてください。」とのことでした。一昨年の韓国のメディア取材の記憶がまだ頭に残っている状況だったため、台湾の方々からの思いもかけない言葉に大変驚きました。また交流イベントを通して台湾では、年代やメディアなどに関係なく全般的に日本に対してポジティブな印象を受けました ■同じアジアの国々でも日本に対する印象の違いに大変驚きを感じる経験をしました。この出来事をきっかけに全く勉強してこなかった歴史の勉強を始めたり、物事を多面的にみる必要性を感じるようになりました。●日本の歴史を知る朗読会参加者 HIROKAZU さんからの VOICE ■

□カナダ スティーブストンという港町に暮らして ～日本からの移民が遺したもの～

2013 年の冬から約 6 年間、私達家族は夫の仕事の都合で、カナダの西海岸に位置するブリティッシュコロンビア州の港湾都市、バンクーバーから車で 40 分ほど南に下ったスティーブストンという港町に暮らしていました。なぜ私達家族がこの地を選んだのかというと、アジア圏からの移民者が多く、学区や治安、そして環境が良いとの理由からでした。私達夫婦には当時 14 歳の娘がおり、現地ではセカンダリースクール<高校>のグレード 8<8 年生>に編入するため、学校選びは第一優先でした。北米では学区がよい地域は環境が良く、学校が近くにある家は値段も高く治安が良いのが特徴です。そして、この港町は日本人にとってゆかりのある場所だということを、暮らしながら体験することができました。かつてこの港町にはサーモンの缶詰工場や造船工場があり、明治時代の初めころ、日本から多くの出稼ぎ労働者が移民として海を渡り、この地で働いていたそうです。このスティーブストンという町はロッキー山脈に端を発するフレーザーリバーの河口にあり、毎年夏の後半から初秋にかけて無数の紅鮭が産卵のために押し寄せてきます ■私達が 6 年間暮らしていた家も、この河口からほんの数分の場所にあり、鮭の産卵シーズンになると鮭捕り漁船が夜通しライトを照らし、鮭漁をしていたことを思い出します。その昔、日本から移民してきた多くの日本人の夫はサーモン漁に、妻は鮭缶工場で過酷な労働をしていたそうです。そして彼らが実際に暮らしていた家や鮭缶工場、造船所が、今は観光地としてこのフレーザーリバー沿いに保存されています。その観光地の中の一つ<ムラカミ・ハウス>は、1908 年にカナダへ渡った村上音吉家族が暮らしていた家です。音吉氏はスティーブストンで漁師、船大工として働いていたそうで、現地では 10 人の子供をもうけ幸せに暮らしていました。しかし、1941 年、日本軍の真珠湾戦争で日本とカナダは戦争状態に陥り、<敵性外国人>となった音吉氏や日系人らはすべての財産を没収されて、内陸部の強制収容所へ送られたそうです。家族の幸せも、カナダへの社会貢献も、新天地での夢も全てが拒否されてしまいました。戦後の音吉氏はというと、二度と船を造ることはなかったそうです。この<ムラカミ・ハウス>や造船所、鮭缶工場の跡地は、私が暮らしていた時に次女を連れて犬の散歩をするのにとっても美しい景色の散歩コースでした。<ムラカミ・ハウス>は今も綺麗に保存されており、中に入ると日本から持参した食器や、小さなベッド、家の一番奥には日本式の木のお風呂場があり、音吉氏が日本を思いながらここで暮らしていたんだろう、ということが伝わってきました。そして家の中には音吉氏の妻あきよさんが 100 歳の時に撮影された、大勢のファミリーに囲

<<千の声 VOICE>>

まれた写真が飾ってありました■現在このスティーブストンには、2～4世の日系人が多く暮らしています。町を歩いていると「Are you guys Japanese? <日本の方ですか?>」と声をかけてくれる日系人の方達がいました。彼ら2～4世の方々は日本語をほぼ話しませんが、私達のような日本から越してきたばかりの者を見つけると、とても嬉しそうに親切にしてくださいました。日系人の日本人がどれだけこの地に貢献してきたのかは、このスティーブストンに暮らすようになってから分かるようになりました。例えば、この町には武道場、日本語学校、お寺、そして日本人の名前が付いた小学校までが存在します。今現在、武道場では幼児から大人まで、柔道や空手、剣道などを習うことができます。日本語学校では週に一度、日本人の先生による日本語教育が受けられます。お寺では毎年夏になると盆踊り大会、大みそかにはお雑煮やうどんが準備されて年越しを祝う行事があります。日系人の方が亡くなられたときには、このお寺で日本式のお葬式を行うこともできます。また、Tomekichi Homma Elementary School<ホンマトメキチ小学校>の名前の由来になったホンマトメキチ氏<本間留吉>は、この地で最初の日本人学校や漁師病院の建設に携わり、1897年、彼は最初の日本の日刊紙、カナダ新報を創刊しました。彼は日本の漁師たちの協会組織を助け、生涯を通じてアジア系カナダ人の参政権の権利のために戦ったそうです。そして、ホンマトメキチ小学校を設立。彼は第二次世界大戦中に抑留され、スロカン溪谷で死亡したそうです。今現在、このホンマトメキチ小学校は公立小学校の中でも人気があり、多くの現地の子供達を越境させてまで入学させたいという親御さんが多くいらっやいます■また、スティーブストンの村のはずれには海を見渡せるギャリーポイントという公園があります。ここには日本から寄贈された255本の桜の木が植えてあり、毎年春になると見事な桜が咲き、4月には桜フェスティバルが開催されます。桜フェスティバルでは、着物の着付け体験、Tea Ceremony<茶道体験>なども行われ、現地の方が日本の文化に触れる機会を設けていて、毎年多くの人で賑わっています■このように、先人達が苦勞し、築き上げてくれたコミュニティのお陰で、私たちのような日本人はとても過ごしやすい環境になっています■2015年の夏、私たち夫婦にこのカナダの地で次女が誕生しました。真っ先に思いついた名前はくさくら>でした。何故なら、カナダ人の多くが、SAKURAという言葉を知っていてしっかりと発音できたからです。きつとすぐに名前を憶えて貰える。そして、桜の木がきれいに咲くこの街で産まれた記念になるだろうと名付けました。次女とスティーブストンの町を歩いていると、「赤ちゃんの名前はなに?」とよく聞かれました。するとく日本人ね、すごく素敵な名前だわ!>と、すぐに覚えてもらえました■かつて移民してきた日本人がこの地で気づき上げたたくさんの大切なものを、今現地で暮らす日本人、日系人達も大切に丁寧に受け継いで暮らしているととても素敵な町でした■もし、カナダのバンクーバーを訪れる機会があれば、ぜひ足を延ばしてスティーブストンの町も訪れてみてください。海の向こう側から、別の日本を感じることができると思います。●日本の歴史を知る朗読会参加者 MIKA さんからの VOICE ■



【海にのびるデッキ】



【ジョージア湾缶詰工場】



【缶詰工場博物館】



【武道場で稽古】

□中国 上海での生活 ～2012年から2015年の思い出～

2012年から2015年の間、上海での生活を経験しました。私は華東師範大学の漢語学院に毎日通う日々を過ごしました。もう色々な事を忘れかけている頃なので、印象的な出来事ばかりが思い出されますので、少し偏った記憶かもしれませんが、生活をしていた時期も、もう10年くらい前になっていますので、現在はもう全く変化していると聞いていますが、思い出として書かせていただきました。洗練されたビル街のイメージが強い上海ですが、親しみやすい、なんとなく気楽な上海の街の人々や雰囲気を感じていただけたら嬉しいです。

【言葉】

上海では、中国語の普通話(日本でいう標準語)とは別に、方言の上海語が話されています。若者は普通話が多く、上海語が分からない人が増えている、という話もありますが、私の周りではよく上海語が飛び交っていました。(バスのアナウンスで普通話の次に上海語も流れるのは、上海語の普及のためと聞いています)上海語は、東京と関西弁程度の違い、なんてものではなく、全然違う国の言葉に聞こえるくらい違いました。中国語は方言がとても多いけれども、漢字を使うことは全国で共通しているので、テレビでは必ず漢字の字幕が付き、中国語習いたてでもなんとなくわかることができました。

日本語 / 普通話 / 上海語 / 広東語(香港)

ありがとう/シエシエ谢谢/シャヤ谢谢/ドウチェ多谢・ンゴイ唔该

<<千の声 VOICE>>

【食べ物】

ジャガイモや玉ねぎに違いは感じなかったけれども、ナスやピーマン、キュウリなどは巨大で驚きました。ピーマンは私のゲンコツ2つ分くらいの大きさ。他のものもすごく大きいものが多かったです。なかでも「柚子」と書いてある果物にはとてもびっくりしました。直径 20 センチくらい。これも上海では巨大なのか、と思っていましたが、あとからフィリピンから転勤してきたご近所さんに「これはフィリピンではポメロという果物で、日本の柚子とは別の種類だよ」と教えてもらいました。野菜や果物は量り売りされます。バナナはスーパーでは大きい房で置いてありました。(20 本くらい)最初のころは、どうしたらいいのかわからなかったのですが、好きな本数分だけむしって買うことができると知ってびっくりしました。私からすれば、売り物を勝手に割いてしまっていて、という感覚がなく、本当にやっていいのか、初めてのときはかなり不安になりました ■ 中国人は果物が大好きで、交差点毎に果物屋があります。輸入品も多くありましたが、中国産の南国の果物がたくさんあり、我が家はいつもマンゴーとパイナップルを買っていました。パイナップルは大きいタッパーを持参して果物屋へ行って、果物屋のおじさんによく熟れたパイナップルを選んでもらって、ナイフで剥いてもらって持って帰ってきていました。葉と外側の皮を取ったあとに、彫刻刀みたいなナイフに持ち替えて、らせん状に種をとっていくナイフさばきは本当に見事でした。果物屋で買ったパイナップルはいつも芯まで熟れていて、芯も食べていました。(日本に帰ってから、芯まで食べられるものにほとんど出会ってなくてなぜなの不思議に思っています)

【道路をわたる】

「中国で、道路の横断するときは一車線ずつ渡らないと、いつまで経っても渡れませんよ」これは駐在前に日本で、中国人の中国語の先生に教わったことでした。自宅マンション前は 6 車線ある道路で、中央分離帯に花壇までありましたが、花壇の切れ目を渡っているのをよく見かけました。一本渡って、白線の上で次の車線の車が行き去るのを待ってまた一本渡る、という方式でした。(現在は禁止されているそうです)もちろん横断歩道できちんと信号を待って渡るのが基本なのですが、せっかちな人はそうやってわたっていたのだと思います ■ バス運賃 2 元(当時は 30 円)私も夫もいつも公共バスで通勤・通学していました。車窓から町の様子をながめて、面白そうなお店を見つけては途中下車をしていました。公共交通はとても安く、便利でした。我が家の前は架線のついたトロリーバスが走っていて、とても趣がありました。(最後の時に、トロリーバスは廃止すると大学で先生が話していたので、今はもうないかもしれないです)バスが来ると、そろそろとみんな集まってくるスタイルで乗り込みます。バスの中では、二人用座席のうち、通路側の席をみんな好んで座ります。奥の席に座るには手前の人が座ったまま足をひょこっと 90 度通路側へ動かして中側の席へ入れてくれます。(一度座席から立って「奥にどうぞ」ということはしません)小さいころ学校で「奥から詰めて座る」と指導されたというのは日本らしい常識だったことに気づきました。好きなところにまずは座り、必要があればすぐ動くという考え方なのだと思います。優先席もありますが、そんなものは必要がないくらい、みんな年長者や妊婦さん、子供にさっと席を譲ってくれました。中国の考え方では、お年寄りに対して敬意を払う、そして、その次が妊婦さん、そしてこどもを大切にする、という順番だそうです。

【タクシー】

タクシーの運転手さんに聞かれる話題はなぜかいつもワンパターンでした。日本人か、韓国人か。家賃いくら？安倍さんについてどう思う？(当時首相)。なぜかいつもこの 3 つでした。家賃いくら？は日本の関西人のようにいつも話している普段の話題のようです。「家賃いくら？」と聞かれて、あまり話したくないな、という思い、答えなくて済む返答を大学で先生に聞いて確認したこともありましたが、上海で反日デモがあったときに、日本人であることをなるべく言わないようにしていたために、タクシーで「韓国人です」と韓国人のフリをしました。運転手さんはサムスンの携帯を使っているよ、とか、韓国の話題をたくさんしてくれて、すごく申し訳ないな、という気持ちになったのを覚えています。安倍さんについて、どう思う？というのもよく聞かれました。日本人とわかったら、安倍さんのことをどう思っているのか聞いてみたい、という好奇心があるようです。他にも話題の中にあったのが、不思議ですが、日本人女性が専業主婦である、というイメージがあるようで、日本人の女性は働かなくていいんだよね、のようなことを何度も言われたように思います。日本のドラマをよく見ているようでしたが、昭和時代のものの印象が強いように思いました。

【季節で路面の店舗が入れ替わる】

冬は上海蟹屋やダウンコート屋(ダウンコートをオーダーメイドしてくれる)、甘栗屋が現れて、夏はスイカ屋が大量に出現します。(すごく機動的に商売している)路面店もよくあるし、スイカが山積みされたトラックの路面販売もよく見かけます。

【上海蟹】

冬になると、上海蟹がたくさん売られています。贈答品として、夫が会社からもらってきたことも数回ありました。生きたまま、藁紐で縛られて豪華に箱詰めされています。路上では竹籠の中にワラワラとたくさん蟹が入っていて、売れると縛ってくれるような形でした(これがまた巧みすぎかった)。初めて家で調理してみようとしたときに、調理の仕方を知らず、洗うために藁紐をほどいてしまったことがあります。台所シンクで逃げ出してしまって、大変なことになりました。上海蟹は縛ったままたわしでゴシゴシ洗い、縛ったまま蒸したり煮たりしなければいけないと学びました。上海でとても高級な蟹レストランへいくと、全て蟹の身をきれいに皿に出してくれます。次に高級なレストランでは自分で蟹を解体して身を出さねばならない、という違いがありました。ちなみに東洋医学の考え方が浸透しており、蟹を食べたらお腹が冷えるので、必ず紹興酒か、黒糖生姜湯とセットで飲むというのが普通でした。

【青空ミシン踏みのおじさん】

うちの近所の集合住宅の門のところで、足踏みミシンの修理工のおじさんが居ました。私もポーチのチャックを直してもらいました。上海は様々な修理工がたくさんいて、店を構えていたり、交差点に座っていたりします。品質が悪く、壊れやすいものも多いけど、すぐ直せることがほとんどで、そういうところはとても便利でした。日本から持ち込んだ空気清浄機も、電圧の違う中国のコンセントに刺して壊してしまったことが二回ありましたが、見事に直してもらい、現在も使っています。

【春節】

春節 0 時に町中で爆竹が始まります。(近所に爆竹屋も出現します)すごい量の花火や爆竹があちらこちらで鳴ります。しかし一気に空が煙だらけになって、PM2.5が急上昇します。我が家のマンション前2車線一方通行の道(大きな街路樹が両側にある)でも家庭用の打ち上げ花火のようなものをバンバンあげて、火花がマンションの窓にあたっているかもしれない、という感じでした。爆竹のごみは道路に大量に残されます。しかし翌朝までに清掃業者がばっちり清掃して、跡形もなくなります。これもすごい見物だと思っていました。(上海市中心部では禁止となったようです)

●青島ビールが好きな AZUSA さんからの VOICE■

□日本の戦争の歴史を再度学び直す ～学校教育とは違う側面から～

五月に始まった朗読会に参加しています。テキストは東京裁判での東條英機さんの供述書の内容を元首相の経歴やエピソードを交え解説しているものです。一人では挫折しそうな固い内容ですが、朗読会では先生や法律の専門家の方が注釈して下さいます。また参加者の体験談やご意見も伺うことができ、そこから新しい知識や視点が得られるので、重い内容とはいえ楽しい3回目が過ぎました。回が進むごとに先生から参考書籍のご提示があり、「さあどんどん学びなさい、知りなさい。」と背中を押されるようで、まるで学生に戻ったような新鮮な心持で臨んでいます■今年で戦後78年。私は毎年夏になると当時の人々に心を寄せたいと思い、戦争に関する報道番組を見、終戦記念日や原爆投下の日には可能であれば祈りの時間を持つてきました。当時学徒出陣した伯父、小学生だった両親共に既に鬼籍に入り、いま身近に戦争について語ってくれる人はいません。身近な戦争経験者がいない今となっては、私が代わってこの戦争の話を子どもに伝えていく必要があるのではないかと、でも私は戦争のことについて本当に息子に話せるだろうか、そんな思いが湧き上がってきました■子どもには自尊感情を持って生きて欲しい、私は常々そう考えています。しかし自分自身を振り返れば、高校時代の教育をきっかけに、私は国がアジア諸国にしたといわれることに対し後ろめたい感情が常に付きまとっています。もし人に伝えるなら、もっと知識を得て戦争に対する別の側面も学ぶ必要があるのではないかと、そして私の心の奥の後ろめたさを分析し、感情論でなく戦争を捉え直したいと感じていたことがこの朗読会への参加のきっかけです■私は中高とキリスト教の私学へ通いました。それはかなり特殊なのかもしれませんが、私の高校の歴史の授業では教科書を使わず、戦争中の日本が侵略したとされる中国と韓国の状況について長い時間をかけて学びました。太平洋戦争当時、日本は近隣の国々で侵略行為を繰返し、耐え難い痛みをその国民に与えたと知った事は、ナイーブな十代の胸に深くつきさりました。この教育のお陰で、自国に対する自尊感情は下がり、いわゆる戦犯と言われた人達に複雑な感情を持ちました。それからは好んで左派と言われる本や週刊誌を読むようになりました■社会へ出てからは、外国人と働ける職場を多く選んで来ました。ここ近年はかつて日本が侵略していたとされる国の人達と身近に触れ合う機会が増えています。しかし実際に仲良くなってみると、アジアの国の若者が日本に対して肯定的に捉え文化的なことにも憧れを持って下さっていると感じています。かつて関わりの深かったアジアの国々の方達と今後も付き合っていく中で、日本の戦争の歴史を再度学び直すことは、大変意義のあることだと信じ、学びを続けていきたいです。

●日本の歴史を知る朗読会参加者 HIROKO さんからの VOICE■

□大東亜戦争について聞いた家族の話 ～戦争について学び伝えられるように～

私の父は終戦の半年程前に生まれ、母は戦後生まれのため、親から戦争中の話を聞くことはほとんどありませんでした。実家の祖父は召集はされたものの目が不自由だったため、身体検査ではねられて戻ってきたと聞かされています。子どもの頃に当時の様子を叔母から聞いたことがあり、祖父は水平さんの格好で戻ってきて出迎えた家族に敬礼をしたとかで、皆がビックリしたそうです■先日父と電話で話した際に戦争の頃の出来事で何か伝え聞いている事があるか尋ねたところ、終戦間近の頃に山の向こうから姿を現したアメリカの戦闘機が近くの駅を攻撃し、駅の職員さんが亡くなられたと聞いているとのことでした。私の故郷(佐賀県)はそれまでほとんど激しい空襲などはなかったようですが、全く攻撃がなかったわけではないようです。母方の実家の話をしますと、祖父は男三人兄弟の真ん中で兄と弟を戦争で亡くしていました。それぞれ飛行部隊でサイパンと北海道方面で亡くなったそうです■母は子どもの頃、母の祖母(私の曾祖母)と飛行機を見る度に「〇〇おじちゃん！〇〇おじちゃん！」と、空に向かって叫んでいたそうです。曾祖母は終戦後何年経っても我が子が死んだとは信じられず、どこかでまだ生きているかもしれないと思っていたと母が言っていました。幼い時はその話を聞いてただただ可哀想だと思っていたのですが、自分が親になった今、わずかにひと月の間に息子二人の戦死の知らせを立て続けに受けた曾祖母の気持ちを思うと、これはもう本

<<千の声 VOICE>>

当に絶望しなかったのではないかと思います■私の祖父の行き先は満州だったそうで、出征前の兄弟会議で祖父の生き残る確率が一番高いだろうとの結論、お兄さんと弟さんは後のことを祖父に託していったとも聞きました■兄弟で一人生き残った祖父は実に無口で真面目で、食事・風呂・寝る以外はずっと働いている人でした。おこがましくも私はおじいちゃんは孫と遊びたいと思わないのかな？などと思ったものでした。そんな母方の祖父からは戦争の話など一度も聞いたことがありませんでした■今思えば祖父にとっての戦争は重い出来事でしかなかったのかなと。それはきっと経験した多くの人にとってもそうだったろうし、どれだけ時間が過ぎようとも決して癒えることのない出来事なのだろうと思います■今年で戦後78年となりました。78年と聞くとだいぶ昔のことに感じますが、自分が戦後35年で生まれたことを思うとそんなに昔の出来事でもなかったのだなと最近思うようになりました■今、石川塾の朗読会で戦争を振り返る機会を与えてもらっています。私は自分の口で子ども達に戦争とは何だったかを伝えられるようにしたいと思っています。そしてまだまだ知らない事が多いので、子どもと一緒に学んでいけたらと思っています。●日本の歴史を知る朗読会参加者 MIYOKO さんからの VOICE■

□私の入院・手術歴② ～14回の入院歴と治療～

【13. 右下肢膝窩動脈瘤バイパス手術（全身麻酔）】

2022年11月1日(10月31～11月11日間入院)。循環器科で行っていた血液抗凝固剤服用による措置に効果がなく、右足の中指と第3指の間にできた傷の回復が見られないため、循環器科の担当医師から、抹消血管外科(バイパス手術)と形成外科(指の治療)の紹介を受けて、各科の診察を受けた。指の傷については、軟膏の塗布の処置が行われるようになる。末梢血管外科での診察の結果、CTの画像から膝窩動脈瘤があり、これが原因となって血栓が発生してステントを入れた部分以下の動脈が閉塞状態にあることが判明した。閉塞状態にある動脈の分岐の部分に開通して動脈が無いとバイパスはできないと言われたが、エコー検査の結果、閉塞部分の下に2本に枝分かれした後脛骨動脈の1本が開通していることが判明し、バイパス手術をおこなうこととなった。(術後入院2～3週間、自宅療養を含め、復職迄1か月を要すると言われた)。尚、下肢の動脈は主要な太い動脈の他に、細い動脈があり、血液が供給されているが、量的には必要量を満たさず、種々の障害を発生させ、この動脈が血栓等で閉塞した場合には、血液の循環が止まり、壊疽となり、下肢切断ということになる■手術は午前9時から午後3時ころまで6時間の全身麻酔で行われた。左脚の鼠径部から踝までの長い、太い静脈を摘出して、これを右下肢に入れてバイパスとした。当日の夜はICUに入り、麻酔の切れてからの長時間の痛みで喘いだ。翌朝には痛みが消え(鎮痛剤も効いたか)、午前11時に、車いすで病棟に戻った。その翌日からは、看護師付きで歩行が許され、3日後くらいからは、病棟内の廊下での歩行のリハビリを開始した。(1周約100mを1日最高60回歩行)術後の経過は良好で、術後1週間目の朝回診で、翌日以降の退院が許可となる。他の診療科の外来診察を控えていたため、11月11日に退院した。退院後の経過も良好で、退院3日後の月曜日から勤務を開始した。一度に百数十mしか歩行できなかったものが、退院翌日から、歩き始めに脹脛(ふくらはぎ)に軽い痛みを感じるものの、歩くうちに痛みが消え、何キロでも歩けるようになった。勤務の無い日は、毎日、1時間程度の散歩で上下動のある丘陵地帯を歩いている。いずれはハイキング程度から低山歩きができるようになりたい■後遺症としては、バイパスを作った脚を90度以上曲げることを禁止された。膝の部分で血管が潰れてしまうため、正座・胡坐が禁止となった。足の浮腫(むくみ)を生じており、未だ足裏と指の痺れは取れていないが、漸次改善しつつある。浮腫みは、静脈が出来上がるまで2年位は続くと言われている■<生活改善:禁煙、食事療法(減塩、脂質減等)>尚、左脚については、未だ閉塞状態には無いものの、やはり膝窩動脈瘤が存在し、その下の動脈は細くなっており(血流不足のためか、痛みはないものの足裏、指に軽い痺れを感じている)、血栓発生により閉塞することになるため、2022年1月24日にバイパス手術をすることになり、1月で手術予定が入られた。医師からは、右脚よりは軽い手術となると言われた。

【14. 左下肢膝窩動脈瘤バイパス手術（全身麻酔）】

2023年1月24日手術(1月23～2月3日間入院)左脚の動脈は未だ閉塞には至っていないが、右脚同様の膝下動脈瘤があり、その部分で血管に血栓が溜まって血流が細くなっている。足の裏や指に軽い痺れがある状態。いずれ右脚を同様の動脈閉塞となることから、予めのバイパス手術を行う。未だ閉塞に無いため、膝上と膝下の間の短いバイパスである。前回同様、朝から午後までの手術。眠っている間のことで、どれだけの時間がかかったかは判らない。付き添った家族の話だと前より短かったとか。気が付くとICUの部屋の中、時間は判らない。一晩、2度ほど痛み止めの点滴を入れてもらった■翌朝6時から水が飲める。ベッドの上半身を30度まで起こす。7時、主治医(執刀医)の回診で、昼前に病棟に移る。手術着からパジャマに着替え、車いす。本日より歩行可能。点滴、尿管が付けられている。左脚の傷跡はそれほど痛まないが、動かすのは痛みで困難。歩行は苦痛でない。昼から食事が出る、完食■経過は良好で、術後6日目の1月30日朝の回診で退院の許可がでる。2月2日に循環器科と泌尿器科の外来診察の予定があったので、退院は2月3日にしてもらう。退院までの間は、ひたすらリハビリ(病棟の廊下1周100mを20周ほど、トレーニングルームで物理療法士についてもらい、自転車漕ぎ、歩行訓練、ストレッチなど30分)■2月3日10時退院。自己歩行、電車で帰宅。土日を休み、1日1時間ほどのリハビリを兼ねての散歩(アップダウン)。事務所へ出での出勤は月曜日からフルタイム。歩速は通常人より遅いが、普通に歩行可能。足裏と指の痺れは次第に軽くなってきている。

【現在の通院加療】全て東京医科歯科大学附属病院

- (1) 循環器内科 3ヶ月後毎通院による服薬(高血圧、高脂血症、コレステロール、動脈硬化症)
- (2) 泌尿器科 腎臓癌術後経過観察、1年毎のCT または MRI 検査(腹部・骨盤)前立腺・頻尿の服薬治療
- (3) 大腸肛門外科 1年毎の大腸カメラ検査(ポリプの有無の検査、摘除)
- (4) 末梢血管外科 バイパス手術後の経過観察(エコー検査による診察)
- (5) 消化器内科 2022年春の泌尿器科のCT 検査で、胃に所見があり胃カメラの検査の結果、以上食道下部に炎症(逆流性胃炎、自覚症状無し)が発見され、以降、胃酸を抑える薬が処方されている。1年後の3月16日に胃カメラの検査の結果、改善が見られる。
- (6) 呼吸器内科 毎年の泌尿器科の腹部CT, MRI 検査で肺臓に所見があると指摘されることがあり、呼吸器内科で診察をするが、古くから同じ部位に脂肪腫があり、肥大が無いとして治療は行われない。

【現在(2023年3月16日)まで】

本日、消化器内科の胃カメラ検査があり、食道炎は改善された。胃にポリプではないが、赤みがある部分があり、組織採取により検査と言われた。

【感想】

私は、小児の頃から「虚弱体質」と言われ、ひょろひょろと背が高く「ノッポ」とあだ名された。毎月のように扁桃腺を腫らして、自宅の隣が内科・小児科医院であったので、喉を焼いてもらい小学校を休んでいた。親は、気にして、小学生高学年から近くのテニスクラブに入れてくれて、同学年で幼なじみの隣の医師の息子とテニスに通い始めた。因みに、彼は肥満で「デブ」と呼ばれ、いつも私と一緒に居るので、近所では「ノッポとデブのコンビ」と呼ばれて、どこにいても目立った存在だった。中学生になってから、やはり隣の医師の紹介で、冬休みと春休みには、その息子と一緒に大人に混じって、スキーの合宿に参加するようになった。扁桃腺の腫れは起こさなくなった■高校(都立九段高校)に入学して、運動部(バレーボール部)に入り、勉強はそっちのけで地獄のような練習に明け暮れたおかげで、体力的にも精神的にも強くなったこと、並み以上の体格(筋力)を得られたことは、受験に失敗して1年の浪人生活という回り道をしてでも得難い時であったと思う■高校での身体検査で、高血圧が指摘され、「若年性高血圧」と言われた。この時まで、血圧を測ったことはなかった。父も母も血圧が高かった。母、たぶんそれが原因で、40歳過ぎの若さでクモ膜下出血で死亡し、父親は心臓に病気(狭心症)を持っており、度々発作を起こし、ある時からペースメーカーを入れていた。高齢になってからは、何回かの入院をしたが、70歳を超えても弁護士の仕事をしており、最後の10年くらいは仕事はしていなかったが、84歳の誕生日の数日前に死亡した。私は、現在75歳で、現役弁護士としては、父のそれを越したが、父の行年までには未だ8年4ヶ月ほどある。今まで、何回も死に至る病に取りつかれながら、その都度、治療で死を回避してきた。フェニックスの様に。大腸癌、腎臓癌、硬膜下血腫はいずれも、進行すれば転移し、粗暴原因となる。抗がん剤の投与や放射線治療も要せず、患部切除だけで再発・転移・後遺症も伴わなかったのは、早期発見と早期の治療、何よりもその機会に巡り合えた幸運のお陰だと感謝しなければならないでしょう。但し、壮年になった時からは、健康診断を欠かさず、毎年、人間ドックをするようにしていたという伏線があります。大腸癌、腎臓癌は、いずれも人間ドックでの精密検査の必要を指摘されての発見によります。高血圧については、知っていましたので、40歳を過ぎた時から病院で診察を受けるようにし、50歳を越えるあたりから投薬を開始しております■高齢になれば、病気とのかかわりあいには避けられませんが、付合いだと思って、無理をしないで向き合っています。世間では「一病息災」と言いますが、私の場合は、「何病」か、数えきれないほどです。命取りにならない為には、「早期発見、早期治療」そして、それを可能とするに日常からの検査(健康診断、人間ドック)、そしてこれを可能とする高度の医療技術を有する医療機関(医師の能力)だと思われます。私の場合は、中年となって以降の全て(近所の開業医院で薬をもらうだけの、毎年1回罹る普通の風邪を除く)病気の治療は、東京医科歯科大学病院のカルテで保管されており、新しい病気になった時にも、他の診療科への院内紹介がされます。同病院が、高度医療専門病院であり、医師養成病院であるため、現在では紹介状が無ければ初診が受けられない状態となっていることを思えば、30年以上前から受診し続けた自分は幸運だったと思います■東京医科歯科大学は、近く東京工業大学を合併し「東京科学大学」となるとか昨年秋に報道されました。「コンバージェンス・サイエンス※」を展開とは何でしょうか？ 新名称を野暮ったく感じるのは、私が、内容が理解できないことを原因としているのであればよいのですが。「附属病院」はどうなるのでしょうか？これが一番の心配です。●史雄さん(75歳)からのVOICE■

◎毎月・第二 日曜に朗読会開催◎ (9/10、10/8、11/12、12/10、1/14、2/11)**●『東條英機歴史の証言 東京裁判宣誓供述書を読みとく』 渡部昇一/祥伝社**

昭和23年刊行後、GHQにより発禁処分とされた東京裁判における東條英機・宣誓供述書。その原文を全掲載、詳説。GHQが封印した歴史の真実、そして日本人が知っておくべき本当の「昭和史」を紐解く。

3月から「閉された言語空間—占領軍の検問と戦後日本」 江藤淳/文藝春秋を朗読予定

※朗読会は誰でも参加できます。石川塾までお問い合わせください。(☎042-710-5768)



<<石川塾の肝心要 ～生きていくための要旨要約～>>

□記述力を身につける要旨要約文上級編(小山鉄郎「白川静さんに学ぶ 漢字は楽しい」新潮文庫より)



※図版写真は P13～19 を転写しました

■【手】をめぐる漢字 【右】【左】【巫】【塞】【尋】【寸】【又】【友】【取】【最】【撮】(文 P13～19より要約)

本文要約：「右」「左」に共通の「ナ」は見ての通り「右手」「左手」を示す字です。そして右の口の部分は口ではなく、神への祝詞を入れる箱のことです。「口」の字を含む漢字を体系化したことが最大の業績の一つ。

左の「エ」はなんでしょう。これは神を呼ぶ呪術のための道具です。呪具「工」を左手で持っている形が「左」の字です。「ナ」だけで、もともと「左」を意味していて、「ナ」が「左」の元の字形でもあります。

「巫」はもとの字形は「𠂔」です。左右の手で呪具である「工」を奉じる形をしています。

「塞」の古代文字はたくさんの「工」が「ナ」の下にあります。これは呪具である「工」を建物の内部に閉じ込める字形なのです。古代からある漢字には、神や祈りに関係したものが多く、一つの大きな特徴です。

「尋」にある「工」「口」は片仮名でなく呪具です。「ヨ」のような部分は旧字「尋」を見れば明快にわかります。古代文字の「手」を示す字形です。下の「寸」の部分も古代文字「手」を示す文字です。「尋」とは左右の手を縦に重ねた字形です。「尋」とは長さの単位で、両手を左右に広げたときの指先から指先までの長さのこと。また、この右に祝禱の器を持ち、左に呪術の呪具を持つというのは、右尊左卑の観念から出たものです。「右」に比べると卑しい「左」だったのです。

「又」という字は、右手の指を出した形で、古代文字を見ればわかるように、「右」の上の部分「マ」と同じ形をしています。「右」という字の元の字形でもあります。

「友」という文字を見てください。「右」の元の字「又」と、「右」や「左」の字形にある「ナ」とを一緒にした字なのです。古代文字を見れば明らかですが、手を二つ重ねた形をしています。

「取」という漢字の隣の「又」も手の形です。古代文字の「取」を見ると、この字は左耳を手で切り取る形をしています。戦争の際、討ち取った証拠に敵の左耳を切り、その耳の数で戦功を数えたのです。

「最」と「撮」も「取」に関係した漢字です。「最」は戦場で得た賊耳を袋に入れて集め持つ意味です。一番集め、一番功績のあった者のことを「最」と言いました。

「撮」の元の字は「最」であり、「撮」は、つまみ持つの意味。「撮」は賊耳した耳をつまみ持つという意味が元の意味だったのです。古代からある漢字には、戦争に関することが多いのも大きな特徴の一つです。●アツト君(小6)の要約■

■石川塾の肝心要の要旨要約テキスト上級編(1冊提出毎に1000ポイント進呈)



●『調べてみよう、書いてみよう』(最相葉月/講談社) ●『白川静さんに学ぶ 漢字は楽しい』(小山鉄郎/新潮文庫) ●『スラムダンクな友情論』(齋藤孝/文藝春秋) ●『日本の歴史(全7巻)』(渡部昇一/ワック) ●『夢十夜』(夏目漱石/岩波文庫ほか) ●『天皇皇后両陛下が受けた特別講義 講書始のご進講』(KADOKAWA)

体験授業は3回無料です。まずは授業体験を…お待ちしております。

お問合せは…TEL042-710-5768 読み書き算数 石川塾

男子の国語力をつけます

女子もつけます

<ふるさとの木によるふるさとの森>>

鎮守の森①～明治神宮～

石川様

いつも「千の声」をありがとうございます。

「宮脇昭 果てなき闘い」なかなか興味深い内容ですね。
明治神宮の森は、小学校・中学校の頃の遊び場でした。
森に入ると野生のウズラが居たこともありました。

タブノキやシイノキではありませんが、1 昨年晩秋に
公園で拾ってきたモミジの種 15 ケ程を小さなポットの土に
入れておいたところ、昨年の 5 月になって土の中から
芽がひとつ出てきました。1 年が過ぎた現在の姿が、同封の
プリントでほぼ原寸大 約 7cm です。

赤と青の花の写真は、以前、栃木県の大平山神社の参道
で撮ったアジサイです。先々週の週末から先週末まで山口
県から東京に移動した際に撮った鳥取の砂丘と木曽御岳山
のプリントを同封しました。幸い天候に恵まれたロングドライブでした。

●公園で拾ったモミジの種を育てている写真家 MIYAZAKI さんからの VOICE ■



石川塾の遠足で(世界一短い詩)をつくりませんか 俳句に興味のある方/塾生・大人・どなたでも

11月26日に明治神宮・小石川植物園へ吟行(俳句づくり)遠足を開催します♥日程は参加希望者と相談の上決定します。どんぐりを探しに(どんぐりをポットで育ててみよう)、七五三の艶やかな着物を見に、モミジの紅葉を見に、初冬の空気を吸いに、みんなでお散歩して俳句をつくりませんか。費用は実費のみ♥五七五の十七文字(音)で作る/季節の言葉(季語)を入れる/この二つを守ればもう立派な俳句です♥毎週発行しているゼミ通信 1 ページ目に投稿作品の中から選ばれた入選作品が掲載されています。入選作品 1 作品につき 10 ポイントが進呈されます。興味のある方はお気軽にお問い合わせください。(読み書き算数石川塾 ☎042-710-5768)

◎ステップアップのための漢字・算数・数学検定◎

■学年に関係なくチャレンジできる▼

お申し込み時に過去問とチェック&リピート表をお渡しします▼●家でもどんどん勉強できるよう取り組み方は授業で伝授します▼●漢字検定は学年に関係なくどんどんチャレンジしよう▼●算数・数学検定は1学年・2学年上の級にチャレンジしよう▼●英検は各級に合わせて文法の基礎からしっかり指導▼
大人の方の受検もサポートいたします▼●過去問とチェック&リピート表をお渡しします▼●検定料と施設費(@1500/月)で過去問のコピー無制限▼●

漢検3級以上取得すると高校入試で内申点が加点されます▼●

英検2級以上は大学推薦入試で加点▼●一般入試で入学試験免除もあり▼●

漢検の日程(石川塾)	数検の日程(石川塾)
2023/6/24/土曜 終了	2023/7/8/土曜 終了
2023/11/10/金曜に変更	2023/9/30/土曜 申込終了
2024/1/20/土曜	2023/12/2/土曜



お申し込み・お問合せは石川塾まで♡電話 042-710-5768

※英検は石川塾では受験できません。本会場または最寄りの準会場を御紹介します。

□塾の遠足「ききたい」「たずねたい」「参加したい」(いつでもなんでも気軽にコール/☎042-710-5768)

●わが子と遊ぶ/わが子と歩む/わが子の歩み/わが子に学ぶ/鎌倉逗子葉山海浜を歩き土の道を歩く/塾の遠足はほぼ毎月/家族友だち知人どなたでも参加できます/2歳からの読み書き算数塾・大人のための石川ゼミ/本がいつばいの教室/夢中な本/午前・午後・夜間いつでもお越しください/お友達の写真はホームページでご覧になれます■「町田 読み書き算数塾 石川ゼミ」検索■

●編集長・渡邊光樹からのVOICE●【「A 級戦犯」という表記は誤りである】一般に「A 級戦犯」と、大文字のAが使われている。しかしこれは間違いである。正しくは小文字のaである。東京裁判における「犯罪の定義」は、国際軍事裁判所条例に定められている。<a 平和に対する罪><b 戦争犯罪><c 人道に対する罪>一般に「BC 級戦犯」と呼ばれるものも、この国際軍事裁判所条例のabcに基づく。つまり、本来はABCと大文字でなく、abcと、小文字で表記されていたのだ。問題は、週刊誌などでよく「A 級戦犯」という表現が使われるように、大文字のAを使うと、最も程度の高い—この場合は最も罪の重い戦争犯罪と、そういう印象を受けることだ。「A 級戦犯」「BC 級戦犯」の別を問わず、重要な国会決議がある。1953年(昭和26年)8月3日、衆議院本会議で可決した「戦争犯罪による受刑者の赦免に関する決議」である。「A 級戦犯」も含め、国会で「戦犯」はいないことが決議されたのだ。いまだに、「A 級戦犯が祀られている靖国神社に首相や閣僚が参拝するのはよくない」と言う人がいるが、それは国会決議を無視していることになる。(第3章/P69~P72)「戦争犯罪国はアメリカだった! 英国人ジャーナリストが明かす東京裁判の虚妄」ヘンリー・S・ストークス/ハート出版■

□ホームページの「new 体験学習ガイド」欄に(俳句と写真■写真:kumi■/幼児教室/石川ゼミ/国語専科)を掲載しています

●編集兼発行人・石川剛からのVOICE●「東條英機 歴史の証言」を読んで—東條英機の姿勢には尊敬するものがあります/開戦は連合国側の挑発に原因し自衛戦として回避することができないものであったということ/他に明治憲法に欠陥があり陸海軍部の責任リーダー不在だったということ/もう一つはコミンテルンの影響が大きかったこと/それにしても多くの命が奪われました/東京に焼夷弾の投下で10万人・各都市…広島に原爆一発で14万人・長崎に原爆一発で7万人超えこれだけの人々をどんな理由があれ計画的に一方的に殺戮していいわけがありません/その中で日本が提案主張した世界の人種差別反対(賛成多数だが米大統領に否決された)と大東亜会議—アジアの欧米諸国からの一植民地からの解放には救われる思いがあります/ところで「わたしの好きな日本の詩36選」(石川剛選)に井伏鱒二の詩を5篇掲載—「誤診」「冬」「シンガポール所見」「つくだ煮の小鱼」「蟻地獄」—どれも面白い詩ですが「シンガポール所見」はインド独立を歌った詩で新宿中村屋のボースさんの名前が登場します(本誌p7参照)■

□石川塾長に「ききたい」「たずねたい」「参加したい」(いつでもなんでも気軽にコール/☎042-710-5768)

□<2023年 秋号「千の声 VOICE」第20号>令和5年9月1日発行■HP「千の声ボイス」にバックナンバーを掲載

■〒194-0021 町田市中町1-30-8 菅井町田ビル2F/町高通り・税務署近く■☎042-710-5768